

4/22(火) 漠然と思うこと。

一安全資産、ディフェンシブ、連続配当銘柄のポートフォリオのウェイトを拡大させるべき。WTIは今が底値。景気後退で需要減はあるも地政学的リスクは下値を支える。今後の”smart sanctions”で影の船団狙い撃ちとイラン勢力の反抗。

経済政策の不透明性と財政赤字拡大予測からタームプレミアムは10年ぶりの高水準へ。長期金利上昇。

関税によりインフレが再燃し、報復関税と世界の貿易構造変化による輸出減少でトランプ氏が固執する貿易赤字拡大か。

大統領の意に沿わないパウエル議長解任でトランプ派のハト派の議長になったとしてもそこまで政策金利を下げることはできない状況ではないはず。(スタグフレーション下の舵取り)

国益むき出しの対外行動も相まって米国離れが加速し、世界の中銀外貨準備のドルの保有比率は更に低下へ。

EUとTPPの連携強化のように中国も対米経済圏をまとめ対抗し、対米投資は減少するのでは。財政赤字拡大での国債格下げのリスクも考えられる。

資金逃避とトリプル安で金融危機に陥るのでは。

学問の府(特にハーバードは”特別枠”で世界の政財界・学術界のリーダーのネットワークを築いているし、国内のエリートの師匠たちを冠する)や官僚機構への締め付け、民主的価値観の無視と不法移民排斥。

頭脳流出の加速と国内の分断が深刻化し社会不安懸念。

アメリカのソフトパワー・経済力・外交力はヨーロッパ圏と中国圏の勢力拡大で相対的に低下するだろう。

ウクライナ停戦に関しては即物的な現アメリカ政権と規範や価値を譲らないヨーロッパの協調仲介は困難。

ヨーロッパ主導で停戦交渉を進めていくのだろうが時間がかかるだろう。

中東では関税、ウクライナ停戦問題を世界が注視している間にイスラエルは親イラン武装勢力を一気に壊滅させたいはず。

親イスラエルのアメリカの過激な中東政策によりイランも敵対行動を加速させ中東は混沌状態に陥りホルムズ海峡封鎖で原油価格は急騰する可能性がある。